



ゴールドラット博士の TOC (25) (チェンジ・ザ・ルールの再読)

AI によるチェンジ・ザ・ルール

3 月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 3 月 21 日(金)

チェンジ・ザ・ルールを AI 導入に適用すると、業務の自動化や最適化によって、人間がより価値の高い仕事にシフトすることが可能になる。

そのためには、まず従来のルールを見直し、ボトルネックを特定し、AI を活用して新しいルールを作ることが重要である。どのルールを変えるのが最も効果的か、考えを進めていく必要がある。

そのためには(現状分析として)、

1. 何を、変えるべきか？
2. 何に、変えるべきか？
3. どうやって、変えるべきか？

これらの点を AI 導入の観点から考えなければならない。

1. 何を、変えるべきか？(変化の核心は何か)

コンピュータの場合は主として定型業務の効率化であった。そのために導入コスト、操作スキル、システム保守などが重要であった。

しかし、AI の場合は、業務の自動化、高度なデータ分析、意思決定の支援、顧客体験の向上などとなる。

2. 何に、変えるべきか？(目標設定として)

コンピュータの場合は、業務効率の向上、コスト削減、生産性向上などが主な目標であった。

AI 導入の場合は、競争優位性の確立、新たな価値創造、イノベーションの促進、社会課題の解決である。

AI 導入は、単なる効率化だけでなく、ビジネスモデルや社会全体の変革も目指す必要がある。

3. どうやって変えるべきか？(変革の実現として)

単なる業務プロセスの見直しなどではなく、AI 戦略の策定、データ基盤の整備、AI 人材の育成などが重要になり、技術的な側面だけでなく、組織文化や人材戦略など、多岐に渡る戦略が必要となる。そして、

「倫理と責任」、「雇用の変化」、「データセキュリティ」など、AI の透明性と説明責任。企業や組織は、AI 導入のメリットを追求するとともに、リスクや課題についても十分に考慮する必要がある。